

マラウイを通じて、 「生き方」「幸せ」について考える

石井 美保
ISHII MIHO

大村市立西大村中学校（長崎県）

担当教科：英語科

- 実践教科： 掲示物、道徳、英語、人権集会
- 時間数： 3時間（掲示物は4か月程度）
- 対象学年： 全生徒、教職員
- 対象人数： 約600名

図書館掲示物でマラウイ紹介

カリキュラム

■実践の目的

- 図書館前の廊下にマラウイに関する掲示や展示を行うことで、マラウイの概要を伝え、多くの生徒にマラウイという国を知らせ、興味を持つきっかけとする。

授業の詳細

《掲示・展示の様子》 10月から、約4か月間掲示・展示させてもらった。





《生徒の反応》



- ・ 立ち止まって見る生徒や友人と語り合う生徒も見られた。
- ・ 掲示物を見て、詳しく話を聞きたいと言ってきた生徒もいた。

成果と課題

■ 成 果

- ・ 担当学級、担当学年以外の生徒へマラウイのことを一部ではあるが、伝えることができた。
- ・ 図書館内ではなく、廊下に掲示したことで、普段図書館を利用しない生徒へも見せることができた。
- ・ 生徒だけでなく、教職員や学校へ来校する保護者に伝えるきっかけにもなった。

■ 課 題

- ・ 図書館前廊下をあまり利用しない生徒や、掲示物へ興味を持たない生徒は、全く見ておらず、存在も知らなかった生徒もいた。
- ・ 掲示物で伝えられる内容は、ほんの一部であり、文化や生活の紹介にとどまっている。

風をつかまえたウィリアム

- 実践教科： 道徳の時間
- 対象学年： 3年生
- 時間数： 1時間
- 対象人数： 38名
(担任をしている学級の生徒)

カリキュラム

■実践の目的

- 絵本「風をつかまえたウィリアム」を通じて、マラウイの生活について知らせる。
- 一人の人間に焦点を当てることで、遠い国ではなく、身近に感じさせる。
- 勤勉なウィリアム少年の生き方に触れ、自分自身の生活を振り返らせる。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
【1時限】 テーマ： ねらい：ウィリアム少年の 生き方を知り、マラウイ への興味を高める。	① マラウイのイメージを確認する。 ② 「風をつかまえたウィリアム」を読む。 ③ イメージの変化を確認する。 ④ 授業で考えたことをまとめさせる。	「風をつかまえたウィ リアム」

授業の詳細

① アフリカやマラウイ、マラウイ人のイメージを確認する。

《生徒の反応》

アフリカやマラウイのイメージ

- ・発展途上国
- ・自然がいっぱいある
- ・砂漠
- ・スラムがある
- ・貧しい
- ・暑そう
- ・衛生面がよくない
- など

アフリカやマラウイのイメージ

- ・無口
- ・はだし
- ・身体能力が高そう
- ・黒人
- ・貧しい
- ・視力がいい
- ・民族衣装を着ている
- など

② 「風をつかまえたウィリアム」を読む。

マラウイの場所などの基本的なことを確認した上で、パワーポイントにしておいた絵本を読んだ。また、ウィリアム少年の故郷ウィンベ村の写真も見せて、より現実味のあるものとした。

《生徒の反応》

読み物資料として読ませる道徳よりも、実際のウィリアム少年の暮らしなどを示したこともあり、全員が集中して話を聞き、興味を持って授業に臨み、深く考える様子が見られた。

③ イメージの変化を確認する。

この話だけで、マラウイのイメージが定着しないように配慮をした上で、自分が思っていたイメージとの比較をさせた。

《生徒の反応》

- ・人は、優しそう ・努力家 ・立派 ・細い人が多い
- ・風車などを自分で工夫して作るなんて、イメージと違った。
- ・勉強したくてもできない子がいた。

④ ウィリアム少年の生き方から学んだことや自分の生活について考えたことをまとめさせる。

《生徒の反応》

- ◆ 暗くなったら、すぐに寝なければならないということは、ウィリアムくんのように勉強したい子は勉強ができません。ゲームとかばかりしている自分が、改めて情けなくなりました。
- ◆ 自分が住んでいる場所のために、学校に行けない中、勉強して風車を作ったことはすごいと思った。尊敬する。
- ◆ 挑戦しようと思った。周りから何を言われようと、自分が興味を持ったことを最後までしようと思った。

成果と課題

ウィリアム少年の存在、生き方を知ることで、マラウイのことに一步踏み込んで考えさせることができたように思う。ただの外国のこと、と捉えさせるのではなく、一人の人間が住む土地だと考えることで、身近に考えさせるきっかけになったと思う。

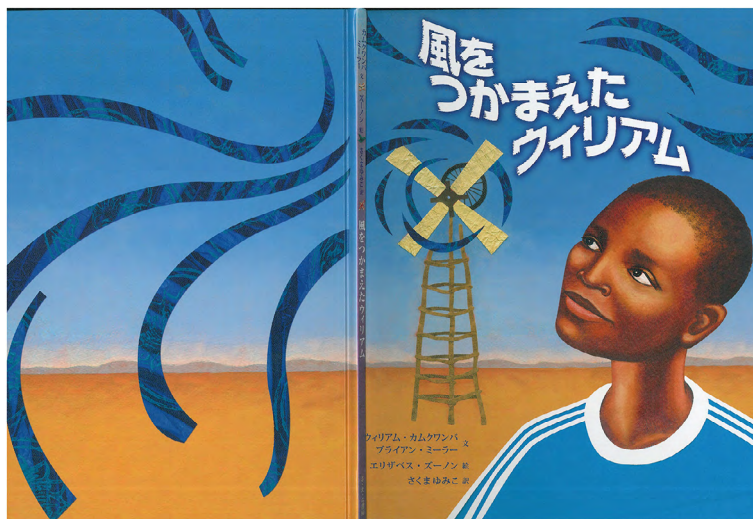
また、ウィリアム少年の生き方と自分の生き方を比較して考えさせることができた。しかしながら、この授業だけでは、マラウイの実態についてはまだ伝えきれていないため、今後の授業で継続的に伝えていく。

参考資料・教材など

「風をつかまえたウィリアム」

ウィリアム・カムクワンバ・ミーラー文

さくまゆみこ訳 さ・え・ら書房



What is the most important thing to you?

- 実践教科：英語の時間
- 対象学年：3年生
- 時間数：2時間×3クラス
- 対象人数：112名
(授業を担当する3学級の生徒)

カリキュラム

■実践の目的

- 「What is the most important thing to you?」という問いに対するマラウイ人の答えから、マラウイ人の考え方を知り、自分たちの考えと比較する。
- マラウイが英語を話す国であることに気付かせ、英語の重要性を理解させる。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
【1時限】 テーマ：自分の大切なものを英語で表現する。 ねらい：日本人として、自分たちにとって大切なものは何なのかを考えさせる。	① 第3学年の教科書（開隆堂 Sunshine）、Program7の題材である「What is the most important thing to you?」の本文の内容理解を行う。 ② 自分にとって大切なものを、英文とイラストで表現させる。	Sunshineの英語の教科書
【2時限】 テーマ：マラウイ人にとっての大切なものや夢を知る。 ねらい：日本人との考えの違いを感じ取らせる。	インタビュー映像を使って、聞き取りをさせる。また、聞き取った内容から、考え方の違いを知る機会とさせる。	マラウイで撮影したインタビュー映像

授業の詳細

マラウイのムセチェ中等学校とミトゥンドゥ小学校で現地の子供達にインタビューした映像を見せ、聞き取りをさせた。聞き取った内容から、自分たちの考える大切なものや夢との比較をさせ、考え方の違いを知る機会とした。

《生徒の反応》

英語が苦手な生徒も、実際に外国人が話している映像を見ると、必死に聞き取りをしようとしていた。また、話している内容を理解できた時に感動している生徒もいた。

《生徒の感想》

- ◆ マラウイの人たちの夢はすごいし、理由も素晴らしいと思った。

- ◆ 世界には努力している人がたくさんいることを改めて知れてよかった。
- ◆ マラウイの写真や映像を見て、アフリカ自体の印象が少し変わって、行ってみたくなった。
- ◆ マラウイの人は、自分よりもすごい想いを持っている人がたくさんいることが分かり、すごくびっくりした。改めて尊敬したし、自分も頑張らないといけないと実感した。
- ◆ マラウイの人は夢がしっかりあって、それに向かって突き進んでいて、自分と比べるとすごく立派だと感じました。
- ◆ 私たちが思っている大切なことと、マラウイの人が思っている大切な事は全然違ってびっくりしました。

成果と課題

■ 成 果

- ・ 英語の重要性を感じていた。
- ・ 今まで考えたことのなかったマラウイの人の考えに触れさせることができた。
- ・ また、同じくらいの年代の子どもの考えを知ることで、自分たちの考えとの比較をし、今の生活を振り返る機会となった。

■ 課 題

- ・ ここでインタビューした子どもたちは、学校へ来ることができている子どもであるため、学校に来ることができていない子ども達の思いにまでは、考えが至っていない。

参考資料・教材など

- ・ SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 (開隆堂)
- ・ 中等学校、小学校でのインタビュー映像



あなたにとって、幸せとは？

●実践教科： 人権集会

●対象学年： 全学年、全教職員

●時間数： 1時間

●対象人数： 約600名

カリキュラム

■実践の目的

- マラウイという国の存在を知らせ、マラウイやアフリカへの興味・関心を高める。
- マラウイと日本の実態を比較して提示し、自分たちの生活を振り返る。
- 自分の立場からの考え方だけで物事を見るのではなく、多面的な視点を持たせる。
- 「幸せ」とは何であるかを考え、日常生活を見直す機会とする。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
【1時限】 テーマ：外国人の人権について学ぶ。 ねらい：マラウイのことで講義を行い、「幸せ」について考える。	人権集会の流れ ① 校内の人権意識アンケート結果発表 ② 「世界がもし100人の村だったら」朗読 ③ マラウイ研修についての講演 ④ 平和スローガン発表	・ 「世界がもし100人の村だったら」 ・ マラウイ研修についてのパワーポイント

授業の詳細

パワーポイントを用いて、講演を行った。

1. マラウイの基本的な情報を、クイズ形式で確認
生徒がイメージしている「アフリカ」の先入観をなくすような写真や情報を盛り込んだ。
(ビルが並んだ街並み、スーツを着ている人、夏にダウンジャケットを着ている姿等)
2. マラウイ訪問で見たものの紹介
マラウイで衝撃を受けたものを見せた。同じ物事でも、日本人の視点から見ると、他の視点から見るとは、見え方や感じ方は違うということを伝えるよう心掛けた。
(量の違うコーラの瓶、詰めて椅子に座って授業を受ける生徒、病院での薬袋等)
3. マラウイのニックネームの紹介
マラウイで出会った人達の笑顔の写真と共に。
4. UNICEF や WHO 等から出されているデータによる比較
5歳以下での死亡率、読み書きの能力、GNI、自殺率等を紹介した。

《生徒の感想》

- ◆ マラウイは、日本と違うところがいくつもありました。しかし、自分たちが普通と考えるのではなく、その国にはその国の普通があって、考えることが違うんだなあと思うようになりました。今回は、話を聞くだけでしたが、日本人もマラウイ人もあまり変わらないなあと思いました。いじめの理由で、「自分と違うから」という人がいたら、「共通点の方が多いよ」と伝えていきたいです。(1年男子)
- ◆ 世界には、マラウイのように貧しい暮らしをしている人がいっぱいいる中で、ぼくたちは幸せな暮らしの中、良い環境に住んでいます。だから、この良い環境を生かして、勉強をいっぱいして、マラウイのような国の人たちを少しでも救えるよう頑張りたいです。(1年男子)
- ◆ マラウイは日本と違い、学校に毎日通うことのできない子どもがたくさんいて、私たちにとって当たり前だと思っていることが当たり前できないということを知りました。そして、私たちは恵まれていることが分かりました。学校に通い、ご飯が食べられる私たちにとって当たり前前に感じていることに感謝しなければならないと思いました。(3年女子)

成果と課題

■ 成 果

- ・ 授業や講演の後に、教科書にマラウイのことが載っていたことを知らせてくれたり、テレビでマラウイのことが紹介されていたことを、伝えてくれるなど、関心を持つ生徒もでてきた。
- ・ 「幸せ」の定義は難しいことであるが、考えていくことで、日本がいかにか恵まれているのか、ということに気付かせることができた。

■ 課 題

- ・ 学校の教育過程の中に関連付けて話をしなければならなかったため、マラウイでの研修で学んだことや伝えたかったことをすべて伝えられたわけではない。しかし、焦点を絞って、生徒達へ伝えることはできたと思う。今後も授業の中で、少しずつ紹介し、考えるきっかけづくりをしていきたいと考えている。



参考資料・教材など

「世界がもし100人の村だったら」池田香代子 著 マガジンハウス

